

表 I -2.3.12 様式-1 (5) 基本情報調査票(5/5)：排土工(切土法面保護工)

様式-1(5) 基本情報調査票(5/5)

管理番号

基本情報記録(排土工(切土法面保護工))

地すべり ブロック 情報	区域名						管理機関名				
	所在地	都道府県	市区町村			北緯			東経		
	地すべり ブロック名	施設名				保全対象					
	採用対策工 (数量)	抑制工					抑止工				
	安全率の 設定と工種別 分担割合	①初期 安全率	②目標 安全率	工種							
		設定									
②-①				割合							

工 法 情 報	設計	年度	設計者			施工	年度	施工者		
	切土高 (直高、全高)	単位法高				法面勾配			地山の地 質、土質	
	法面保護工									
	補強土工・法尻補強の有無		☐ 無/ ☐ 有)							
	小段幅	小段排水の有無		☐ 無/ ☐ 有(水路寸法)						

関 連 資 料	設計計算書	☐ あり / ☐ なし	標準断面図	☐ あり / ☐ なし	構造図	☐ あり / ☐ なし
	地盤調査記録 (調査報告書)	☐ あり / ☐ なし	設計条件記録 (設計報告書)	☐ あり / ☐ なし	計測データ等 (観測報告書)	☐ あり / ☐ なし
	施工前 状況写真	☐ あり / ☐ なし	施工状況 写真	☐ あり / ☐ なし	出来形資料	☐ あり / ☐ なし

履 歴 情 報	設置前被災	☐ あり / ☐ なし	状況		
	設置後被災	☐ あり / ☐ なし	状況		
	補修補強 (付帯施設を含む)	☐ あり / ☐ なし	方法		
	変位置観測	☐ あり / ☐ なし	状況		

特 記 事 項					
資料照会先					
作成日				作成者	

表 I -2.3.13 様式-1 (5) 基本情報調査票(5/5)：擁壁(枠)工

様式-1(5) 基本情報調査票(5/5)

管理番号

基本情報記録(擁壁(枠)工)

地すべり ブロック 情報	区域名				管理機関名			
	所在地	都道府県	市区町村	北緯	東経			
	地すべり ブロック名	施設名		保全対象				
	採用対策工 (数量)	抑制工	抑止工					
	安全率の 設定と工種別 分担割合	①初期 安全率	②目標 安全率	工種				
				設定				
②-①			割合					

工法 情報	設計	年度	設計者	施工	年度	施工者
	種別	壁高		勾配 (前面・背面)	延長	
	枠材材質	中詰材材質		天端幅	底幅	
	基礎地盤 (摩擦抵抗)				許容支持力	
	背面地盤勾配					
	設置目的					

関連 資料	設計計算書	☐ あり / ☐ なし	標準断面図	☐ あり / ☐ なし	構造図	☐ あり / ☐ なし
	地盤調査記録 (調査報告書)	☐ あり / ☐ なし	設計条件記録 (設計報告書)	☐ あり / ☐ なし	計測データ等 (観測報告書)	☐ あり / ☐ なし
	施工前 状況写真	☐ あり / ☐ なし	施工状況 写真	☐ あり / ☐ なし	出来形資料	☐ あり / ☐ なし

履 歴 情 報	設置前被災	☐ あり / ☐ なし	状況	
	設置後被災	☐ あり / ☐ なし	状況	
	補修補強 (付帯施設を含む)	☐ あり / ☐ なし	方法	
	変位量観測	☐ あり / ☐ なし	状況	
	防錆処理	☐ あり / ☐ なし	方法	

特 記 事 項				
資料照会先				
作成日		作成者		

表 I -2.3.14 様式-1 (5) 基本情報調査票(5/5) : 杭工

様式-1(5) 基本情報調査票(5/5)

管理番号

基本情報記録(杭工)

地すべり ブロック 情報	区域名				管理機関名			
	所在地	都道府県	市区町村	北緯		東経		
	地すべり ブロック名	施設名		保全対象				
	採用対策工 (数量)	抑制工			抑止工			
	安全率の 設定と工種別 分担割合	①初期 安全率	②目標 安全率	工種				
			設定					
②-①			割合					

工 法 ・ 設 計 情 報	設計	年度	設計者			施工	年度	施工者				
	材質			外径			肉厚			全長		
	許容応力度	☐ 短期	☐ 長期	(曲げ)			(せん断)			設計荷重 (必要抑止力)		
	本数			削孔径			杭頭変位量 (計算値)			段数		
	付帯 施設	アンカー工	☐ 無/	☐ 有	工法名			取付位置 (杭頭からの距離)			設置角度	
			本数			自由長			アンカー体長			反力体
		頭部連結工の有無	☐ 無/	☐ 有	埋設深さ							
	杭設置地盤							不動層の 変形係数				
	種別	☐ くさび杭 / ☐ 補強杭 / ☐ せん断杭 / ☐ 抑え杭 / ☐ その他										
	準拠基準											

関 連 資 料	設計計算書	☐ あり / ☐ なし	標準断面図	☐ あり / ☐ なし	構造図	☐ あり / ☐ なし
	地盤調査記録 (調査報告書)	☐ あり / ☐ なし	設計条件記録 (設計報告書)	☐ あり / ☐ なし	計測データ等 (観測報告書)	☐ あり / ☐ なし
	施工前 状況写真	☐ あり / ☐ なし	施工状況 写真	☐ あり / ☐ なし	出来形資料	☐ あり / ☐ なし

履 歴 情 報	設置前被災	☐ あり / ☐ なし	状況		
	設置後被災	☐ あり / ☐ なし	状況		
	補修補強 (付帯施設を含む)	☐ あり / ☐ なし	方法		
	杭変形量観測	☐ あり / ☐ なし	状況		
	防錆処理	☐ あり / ☐ なし	方法		

特 記 事 項					
資料照会先					
作成日				作成者	

表 I -2.3.15 様式-1 (5) 基本情報調査票(5/5) : アンカー工

様式-1(5) 基本情報調査票(5/5)

管理番号

基本情報記録(アンカー工)

地すべりブロック情報	区域名						管理機関名			
	所在地	都道府県	市区町村	北緯		東経				
	地すべりブロック名	施設名		保全対象						
	採用対策工(数量)	抑制工	抑止工							
	安全率の設定と工種別分担割合	①初期安全率	②目標安全率	工種						
				設定						
②-①			割合							

工法・設計情報	仕様の異なるアンカー工の有無	☐ 無 / ☐ 有								
	設計	年度	設計者	施工		年度	施工者			
	工法名(規格)	支持方式	定着方式	引張材種類						
	荷重情報	設計アンカー力	初期緊張力		定着時緊張力					
	本数	削孔径		受圧構造物						
	防錆方法	頭部	自由長部		アンカー体					
	標準配置	間隔(m)	段数(段)		傾角(°)					
		自由長(m)	アンカー体長(m)		$\beta(^{\circ})$					
	アンカー設置地盤					極限周面摩擦抵抗(kN/m ²)				
	アンカー機能(作用力)	☐ 引き止め効果 / ☐ 締め付け効果 / ☐ 両方		準拠基準						

関連資料	設計計算書	☐ あり / ☐ なし	標準断面図	☐ あり / ☐ なし	構造図	☐ あり / ☐ なし
	引抜き試験	☐ あり / ☐ なし	長期試験	☐ あり / ☐ なし	適性試験	☐ あり / ☐ なし
	地盤調査記録(調査報告書)	☐ あり / ☐ なし	設計条件記録(設計報告書)	☐ あり / ☐ なし	計測データ等(観測報告書)	☐ あり / ☐ なし
	施工前状況写真	☐ あり / ☐ なし	施工状況写真	☐ あり / ☐ なし	材料納品記録	☐ あり / ☐ なし

履歴情報	設置前被災	☐ あり / ☐ なし	状況	
	設置後被災	☐ あり / ☐ なし	状況	
	補修補強	☐ あり / ☐ なし	方法	
	荷重調整	☐ あり / ☐ なし	状況	
	荷重計設置	☐ あり / ☐ なし	状況	

特記事項			
資料照会先			
作成日		作成者	

(4) 整理された情報の活用

ここで整理された情報は、施設の維持管理における基礎資料となり、機能維持に関する課題や、異常が認められた場合の要因の推定に際して一つの判断材料となる。したがって、基本情報調査の結果を現地での着目点等として事前に整理することで各調査(日常管理、概査、詳細調査)の効率を向上させることができる。

概査時に健全性に対する評価を行う場合は、まず基本情報調査で整理された計画時の設計条件と、概査時に得られた情報について整合性を確認する。前回までの記録と何らかの相違が認められれば、その結果は健全性を判断する上で重要な材料となる。したがって、供用期間中の経年的変化の記録は、写真や簡易計測等により整理し、相互に比較できるよう、整理しておくことが望ましい。

これらは日常管理や概査などの機能診断サイクルを繰り返す中で、更新・蓄積させるものとする。

(5) 基本情報調査に当たっての注意事項

基本情報調査を実施し、その結果を取りまとめるにあたって注意すべき事項は以下の通りである。

1) 点検・評価・管理する範囲(評価単位)

「基本情報記録(様式-1(5))」の起票によって機能診断サイクルの中で1つの施設として点検・評価・管理する範囲(評価単位)を決めることになるため、対象施設の管理の実情(施設管理台帳の記載等)に合わせて、施設の範囲等を必要に応じて適切に分割して取り扱うこととする。機能診断サイクルの中で不具合があれば区分を見直すことも必要である。また、水路工や擁壁(枠)工、押え盛土工などの施設は、複数の地すべりブロックに跨って設置される場合がある。そのような場合、原則として一つの地すべり防止施設について一つの「基本情報記録(様式-1(5))」を作成し、複数の地すべりブロックについては「地すべりブロック台帳(様式-1(1)~(2))」をそれぞれ作成することが望ましい。ただし、既存の施設管理台帳等に施設と地すべりブロックの関係について記載があれば、それに従う。

2) 基本情報調査に用いた既往資料の保存管理と有用性

既往資料は、施設の維持管理にとって重要な情報であるため、施設の供用期間を通じて保存管理していく必要がある。その中で施設の設計条件に関する資料や現地と整合する完成図などの図面類は重要な情報であり、電子記録媒体などに記録し半永久的に保存することが望ましい。設計条件に関する資料は、どの程度の規模の地すべりを想定して設計されているのか、各部材の耐力がどの程度あるか等、設計時に考慮されている各条件を抽出することができる。また、図面類からは、目視できない部分も含

めて、構造全体を把握することができる。

3) 地すべりブロック年表の整理

基本情報調査では、施設の設置経緯から供用後の維持管理内容に至るまで、各段階の様々な資料が収集されるため、容易に全体を把握するのは難しい。そのため、施設に関するこれまでの経緯を大局的に理解できるよう、「地すべりブロック年表（様式-1(3)）」を利用して情報を整理するのがよい。

4) 施設管理者が独自に施設管理台帳等で基本情報を十分整理している場合

施設によっては目視点検で施設の諸元がある程度確認できるため、施設管理者が独自に施設管理台帳等で基本情報を十分整理している場合には、本手引きの様式の代替として使用することも可能である。

5) 情報の優先順位の目安

基本情報調査時点で情報不足の場合であっても、基本情報調査票の記入を完全に終えるまで点検実施を待つ必要はなく、その後の機能診断サイクル(日常管理、概査、詳細調査)を進めてよい。また、ここで示す様式中の記述欄は様々な施設状態を記録できるように網羅的に作成されており、日常管理時および概査時までには必ずしも全てを埋める必要はない場合がある。様式中の欄を埋めることができない場合は、調査に支障が出ない程度であれば基本情報調査時点では空欄や仮記入とし、日常管理や概査等を利用して、情報を徐々に収集・更新し続けることが望ましい。そこで、施設に対する機能診断の各段階(日常管理、概査)において最低限必要とされる情報を優先順位の高い順に示す（表 I-2.3.16 参照）。

- a) 管理情報：点検（日常管理、概査）時に必須の情報であり、施設名や管理機関名や保全対象などがこれに当たる。ただし、施設名等が存在しない場合、仮名を付けるなどして現地調査に向かうことも考えられる。
- b) 位置情報：点検（日常管理、概査）時に必須の情報であり、地すべりブロック図上に施設の位置を示した図面が点検者に提供されると、現地調査時に極めて有用な情報となる。位置情報が現地実態と比較して大きく異なるときは、更新する。
- c) 工法情報のうち施設諸元(高さや幅など)：概査時に変状の計測を行う際の比較対象となるため、概査までに把握することが望ましい情報である。事前に把握した施設諸元が現地で実際に確認できる施設の諸元(工種、構造、材質、高さや幅など)と大きく異なるならば、基本情報を更新する。
- d) その他の情報：適宜、情報収集・整理する。

表 I -2.3.16 現地調査時に最低限必要な基本情報調査項目の優先順位の例

様式-1(5) 基本情報調査票(5/5)

管理番号

基本情報記録(擁壁(枠)工)

地すべりブロック情報	区域名		管理機関名			
	所在地	都道府県	市区町村	北緯	東経	
	地すべりブロック名	施設名		保全対象		
	採用対策工(数量)	抑制工	抑止工			
	安全率の設定と工種別分担割合	①初期安全率	②目標安全率	工種		
			設定			
②-①			割合			

工法情報	設計	年度	設計者	施工	年度	施工者
	種別	壁高		勾配(前面・背面)	延長	
	枠材材質	中詰め材質		天端幅	底幅	
	基礎地盤(摩擦抵抗)	許容支持力				
	背面地盤勾配					
設置目的						

関連資料	設計計算書	☐ あり / ☐ なし	標準断面図	☐ あり / ☐ なし	構造図	☐ あり / ☐ なし
	地盤調査記録(調査報告書)	☐ あり / ☐ なし	設計条件記録(設計報告書)	☐ あり / ☐ なし	計測データ等(観測報告書)	☐ あり / ☐ なし
	施工前状況写真	☐ あり / ☐ なし	施工状況写真	☐ あり / ☐ なし	出来形資料	☐ あり / ☐ なし

履歴情報	設置前被災	☐ あり / ☐ なし	状況	
	設置後被災	☐ あり / ☐ なし	状況	
	補修補強(付帯施設を含む)	☐ あり / ☐ なし	方法	
	変位量観測	☐ あり / ☐ なし	状況	
	防錆処理	☐ あり / ☐ なし	方法	

特記事項				
資料照会先				
作成日		作成者		

a) 管理情報

b) 位置情報

c) 工法情報のうち施設諸元(高さや幅など)

d) その他

2.4 日常管理（定期・臨時の巡視）

（1）目的

地すべり防止施設の日常管理（定期・臨時の巡視）では、施設の異常、経時変化（老朽化）、明らかな危険状態の把握を行うことを目的とする。

（2）点検方法

日常管理は、施設周辺の概略目視により行うことを基本とする。また、定期の実施に加えて地震時や異常気象時における変状等の有無の確認も行い、二次被害の防止に努める。日常管理にて異常を発見したら、追加調査（概査）の必要性の判断をする。

点検者は、通常、地すべり防止区域の管理者である道府県、あるいは道府県から委託された市町村、地元住民（施設管理者から委託された地すべり巡視員）等である。

点検に当たっては、施設周辺も含め、容易に視認できる顕著な変動を把握する。その際、できるだけ写真を記録として残すことが望ましい。また、点検箇所の現在の状況と比較するために前回の点検記録を持っていくことが望ましい。なお、異常であるか判断の困難なものについては追加調査（概査）を提案する。

（3）点検時の注意事項

1）安全確保

実際に点検を行うときは、安全管理上無理のない範囲（転倒や滑落等によるけがの心配のない程度）で目視することを原則とし、点検者自身の安全を確保しつつ、巡視ルートから構造物の状態を観察する。

2）異常気象時における点検

地震直後や異常気象時あるいは異常気象時直後に行う点検では、斜面が不安定化している可能性もあるため、小落石の発生や異音等の崩壊の兆候に気をつけて、状況に応じて、斜面に近づきすぎないように留意する。

3）安全な点検ルート

施設によっては急斜面や植生などで位置確認の難しいこともあるため、位置図については事前に準備し、安全管理上無理のない範囲で目視する。

4）点検中に施設を見つけられない場合の対処方法

現地にて発見できない施設や目視できる範囲まで近づくことが難しい施設については、無理せず、未発見や未到達の旨を点検票に記録として残す。施設の位置を確認できない場合は、後述の日常管理時の点検様式の中の、「見当たらない」にチェックし、自由記入欄に「位置不明のため状況未確認」などのメモを残す。その場合、後日、ルート等の準備を整えて再度点検を行うか、または、必要に応じて概査等を実施し、施設の状況を把握することが望ましい。

5) 点検時の記録の心がけ

日常管理で把握された異常箇所については、ある程度の位置情報を付して記録し、情報の引き継ぎを容易にする。また、継続的に観察していく中で気になる点があれば、点検項目にない事象であっても記録として残す。

必要に応じて、点検には、双眼鏡などを活用するほか、カメラを携帯する。今後の施設管理における位置情報整備のため、GPS 機能付きカメラ等があれば一層望ましい。

異常や施設の状態を写真撮影する時は、可能な範囲で施設全体を写した全景写真を必ず記録するように心掛ける。また、近接可能な場合やカメラの望遠機能を用いて撮影可能な場合は、変状箇所を中心に近景写真を記録する。

なお、撮影の際は対象物の他にペンや人など大きさを比較できるものを一緒に写すとよい。もし過去の点検記録等に写真があれば、同じアングルになるように心がける。

(4) 優先的に点検すべき項目

可能な範囲で全ての項目を確認することが望ましいが、植生等によって施設を目視点検するための十分な視界を確保できない場合等も想定される。日常管理における点検に当たっては以下の視点で優先的に点検すべき項目を設定する。なお、各工種での優先的に点検すべき項目と現場での点検ポイントは、Ⅱ～Ⅺ の各編に示した。

- ①人的被害のおそれ（破損・劣化した場合に近隣居住者や通行人等へ危害を及ぼすおそれのあるもの）
- ②施設全体の安定性（施設の大きな変状や主要な機能に大きな影響を与える異常）

(5) 点検様式とその記入手順

点検に際しては、予め決められた点検様式を使用するなどして、明らかな異常の見落としがないように実施する。本手引きで提示する点検様式を表Ⅰ-2.4.1～表Ⅰ-2.4.11に、代表として水路工に対する使用例を表Ⅰ-2.4.12～表Ⅰ-2.4.13に示す。

これらを用いて以下の手順で点検結果をまとめる。なお、各工種の点検項目等については、Ⅱ～Ⅺ の各編を参照すること。

<様式記入手順>

- ①各工種に合わせて、様式-2（1）を選択
- ②各点検項目に沿って記入(次頁参照)※
- ③その他気づいたことや評価・判断の理由等は自由記述欄に記入。必要に応じて、共通様式となる様式2-2(2)の自由記述欄を活用し、踏査図や写真、コメントをまとめる。

※点検項目についての解説

- 1) 対象項目：点検者が見た範囲内で当てはまる状況に ☒ を入れる。点検票で示された部位が実際の対象施設に含まれない場合や、施設や施設内の部位の一部が現地で見当たらない場合もあるため、点検時に点検対象施設を見つけた際は、部位の有無の確認(見当たらない場合も含む)等を必ず行うこと。なお、対象項目のうち「周辺状況」は施設から目視で見渡せる範囲までの状況を指す。
- 2) 異常が見られる項目：各対象項目(各部位)に当てはまる異常があれば ☒ を入れる。必要であれば自由記述欄等を活用してコメントや写真を残す。
- 3) 結果：「異常が見られる項目」に一つでも ☒ があれば結果欄の「異常あり」を選択する。常に点検に適した視界を確保できるとは限らないため、対象が植生等で見えにくいようであれば、「異常あり」「異常なし」に関わらず、「植生等で見えにくい」にも ☒ を入れる。必要に応じて植生状況等の点検時の状況をコメントや写真に残す。

1) 対象項目		2) 異常が見られる項目	3) 結果
変形なし		異常が見られる項目(□にレをチェック)	結果(□にレをチェック)
本体	①水路部 ※水路の有無を確認 ☒ 有 ☐ 無(見当たらない) <材質・種類> ☒ コンクリート製 ☐ 鋼製 ☐ 樹脂製 ☐ その他()	☐ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等) ☒ 3.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等) ☐ 4.水路脇の陥没・洗掘 ☐ 5.流末からの土砂流出 ☐ 6.流末の位置が不明	☐ 異常なし ☒ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
	②暗きょ部 ※暗きょ工吐口部の有無を確認 ☒ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.排水量がない ☐ 2.吐口部の明らかな閉塞 ☐ 3.吐口部の変形・損傷 ☒ 4.吐口部の埋没	☐ 異常なし ☒ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☒ 植生等で見えにくい
	③集水升 ※集水升の有無を確認 ☐ 有 ☒ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) ☐ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
	④落差工 ※落差工の有無を確認 ☒ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) ☐ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等)	☒ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☒ 植生等で見えにくい
付帯施設	⑤蓋 ※水路・集水升の蓋の有無を確認 ☐ 有 ☒ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
	⑥安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑦周辺状況		☐ 1.地表の変状 (沈下・隆起・洗掘・流出・崩落・押出し・吸出し・亀裂等) ☐ 2.湿地の形成(水たまり、湧水等)	☒ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☒ 植生等で見えにくい

留意点：周辺状況の確認は施設から目視で見渡せる範囲程度とする。

図 I - 2.4.1 点検項目についての解説

表 I -2.4.1 様式-2(1) :型 O1 日常管理調査票(1/2) : 水路工

様式-2(1) :型O1

日常管理調査票(1/2)

地すべり防止施設機能診断調査

<水路工(承水路工・排水路工・暗きょ工・明暗きょ工)>

点検年月日 / / 天候 点検者 (調査票番号:)

諸元 区域名 ブロック名 施工年度
元 該当施設(施設番号) ☐ 承水路工 ☐ 排水路工 ☐ 明暗きょ工 ☐ 暗きょ工 () 延長 m

対象項目(□にレをチェック)	異常が見られる項目(□にレをチェック)	結果(□にレをチェック)
①水路部 ※水路の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) <材質・種類> ☐ コンクリート製 ☐ 鋼製 ☐ 樹脂製 ☐ その他()	☐ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等) ☐ 3.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等) ☐ 4.水路脇の陥没・洗掘 ☐ 5.流末からの土砂流出 ☐ 6.流末の位置が不明	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
②暗きょ部 ※暗きょ工吐口部の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.排水量がない ☐ 2.吐口部の明らかな閉塞 ☐ 3.吐口部の変形・損傷 ☐ 4.吐口部の埋没	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
③集水升 ※集水升の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) ☐ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
④落差工 ※落差工の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) ☐ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑤蓋 ※水路・集水升の蓋の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑥安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑦周辺状況	☐ 1.地表の変状 (沈下・隆起・洗掘・流出・崩落・押出し・吸出し・亀裂等) ☐ 2.湿地の形成(水たまり、湧水等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい

点検結果 ☐ 異常なし ☐ 異常あり : 上記で一つでも「異常あり」があれば点検結果も「異常あり」とする

各項目および周辺状況で気づいた点があれば記入して下さい(自由記入)

概略構造
(形状や材質には様々な種類があります)

承水路工は地表水が地下浸透する前に捕水することを目的とします。
明暗きょ工は、排水路工と暗きょ工を二階建ての構造にして設置するもので、地表水と浅い地下水を効率的に集めて排除することを目的とします。

評価 (施設管理者記入)	☐ 1.追加調査が必要 ☐ 2.補修が必要 ☐ 3.点検を継続
-----------------	--

表 I -2.4.2 様式-2(1) :型 O2 日常管理調査票(1/2) : 水抜きボーリング工

様式-2(1) :型O2 日常管理調査票(1/2) 地すべり防止施設機能診断調査
 <水抜きボーリング工>

点検年月日	/ /	天候		点検者		(調査票番号:)
諸元	区域名	ブロック名	施工年度			
元	該当施設(施設番号) □ 水抜きボーリング工 ()			本数	本	
対象項目(□に○をチェック)		異常が見られる項目(□に○をチェック)		結果(□に○をチェック)		
本体	①集水管(吐口部) ※集水管の有無を確認 □ 有 () 本) □ 無(見当たらない) <材質・種類> □ 樹脂製(塩ビ管等) □ 鋼製(ガス管等) □ その他()	□ 1.損傷(割れ、接続不良等) □ 2.吐口部の閉塞(スライム等の明らかな付着) □ 3.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等)		□ 異常なし □ 異常あり () 本) 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい		
	②孔口保護工 ※孔口保護工の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)	□ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) □ 2.変形・損傷(開口したひび割れ、傾き、部分欠損等) □ 3.湧水		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい		
	③集水升 ※集水升の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)	□ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) □ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等)		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい		
	④導水パイプ・流末施設 ※導水パイプ・流末施設の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)	□ 1.損傷(割れ、接続不良等) □ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等) □ 3.漏水・溢水		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい		
	⑤安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)	□ 1.変形・損傷 □ 2.腐食(錆、表面劣化等)		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい		
⑥周辺状況		□ 1.地表の変状 (沈下・隆起・洗掘・流出・崩落・押し出し・吸出し・亀裂等) □ 2.湿地の形成(水たまり、湧水等)		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい		

点検結果 □ 異常なし □ 異常あり ∴上記で一つでも「異常あり」があれば点検結果も「異常あり」とする

各項目および周辺状況で気づいた点があれば記入して下さい(自由記入)



評価 (施設管理者記入) □ 1.追加調査が必要 □ 2.補修が必要 □ 3.点検を継続

表 I -2.4.3 様式-2(1) :型 O3 日常管理調査票(1/2) : 集水井工

様式-2(1) : 型 O3 日常管理調査票(1/2) 地すべり防止施設機能診断調査
 <集水井工> 集水井外(安全な位置)から判別できる大きな異常の有無を確認する、点検口や立入防護柵等の施錠を確認する

点検年月日 / / 天候 点検者 (調査票番号:)

諸元 区域名 ブロック名 施工年度
 元 該当施設(施設番号) □ 集水井工 () 深度 m

対象項目(□にレをチェック)	異常が見られる項目(□にレをチェック)	結果(□にレをチェック)
①集水井工内部 ※集水井工内部の視認の可否 ☐ 可 ☐ 不可(状況を下記に記載) <材質・種類> ☐ 鋼製(ライナープレート等) ☐ コンクリート製(セグメント等) ☐ その他()	☐ 1.変形・損傷(せん断、傾き等) ☐ 2.腐食(著しい錆等) ☐ 3.集水ボーリングの閉塞(孔口部に付着物がある) ☐ 4.異常湛水や土砂等の堆積 (異常湛水:集水井内部の底張コンクリート天端より水面が高い場合)	☐ 異常なし ☐ 異常あり [状況]以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい ☐ 他の理由で見えにくい []
②排水ボーリング(流末施設) ※排水ボーリング吐口の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.排水がない、もしくは排水量の明らかな減少 ☐ 2.吐口部周辺の損傷 ☐ 3.吐口部周辺の埋没	☐ 異常なし ☐ 異常あり [状況]以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
③天蓋 ※天蓋の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) ※点検口の施錠: ☐ 有 ☐ 無	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等) ☐ 3.点検口の鍵の損傷・腐食等 ☐ 4.点検口の鍵がかかっている(開いている)	☐ 異常なし ☐ 異常あり [状況]以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
④点検梯子 ※点検梯子の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり [状況]以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑤安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) ※入口の施錠: ☐ 有 ☐ 無	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等) ☐ 3.柵の錠の損傷・腐食等 ☐ 4.入口の鍵がかかっている(開いている)	☐ 異常なし ☐ 異常あり [状況]以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑥周辺状況	☐ 1.地表の変状 (沈下・隆起・洗掘・流出・崩落・押出し・吸出し・亀裂等) ☐ 2.湿地の形成(水たまり、湧水等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり [状況]以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい

点検結果 ☐ 異常なし ☐ 異常あり ∴上記で一つでも「異常あり」があれば点検結果も「異常あり」とする

各項目および周辺状況で気づいた点があれば記入して下さい(自由記入)

概略構造
 (形状や材質には様々な種類があります)

集水井工は、暗きょ工や水抜きボーリング工等で排除できない比較的深い地下水の排除や、すべり面に働く過剰な間隙水圧の低減を目的としています。

(〔点検時注意〕天蓋の上に乗るなどの危険行動はしない。最後に必ず施錠を確認すること。)

排水ボーリング 排水工 流末施設 排水ボーリング 集水井 付帯施設 地すべり斜面

評価
 (施設管理者記入) ☐ 1.追加調査が必要 ☐ 2.補修が必要 ☐ 3.点検を継続

表 I -2.4.4 様式-2(1):型 O4 日常管理調査票(1/2)：渓流護岸工

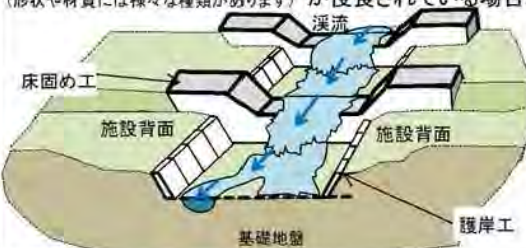
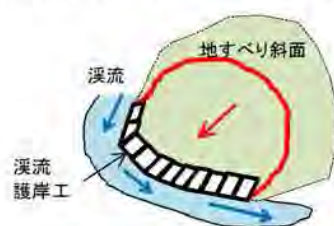
様式-2(1)：型O4		日常管理調査票(1/2)		地すべり防止施設機能診断調査	
＜渓流護岸工＞					
点検年月日		天候	点検者	(調査票番号)	
諸	区域名	ブロック名	施工年度		
元	該当施設(施設番号) ☐ 渓流護岸工			延長	m

対象項目(□にレをチェック)	異常が見られる項目(□にレをチェック)	結果(□にレをチェック)
①護岸工 ※護岸工の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) ＜材質・種類＞ ☐ コンクリート ☐ 籠枠等 ☐ その他()	☐ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) ☐ 2.変形(沈下・傾き・継ぎ目のずれ・はらみ出し等) ☐ 3.損傷(ひび割れ・摩耗・部分欠損等) ☐ 4.湧水 施設周辺の湧水の供給源 ☐ 不明 ☐ 有() ☐ 5.構造物背面のすきま(背面地盤の侵食に伴う浮き等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
②床固め工 ※床固め工の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) ＜材質・種類＞ ☐ コンクリート ☐ 籠枠等 ☐ その他()	☐ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) ☐ 2.変形(沈下・傾き・継ぎ目のずれ・はらみ出し等) ☐ 3.損傷(ひび割れ・摩耗・部分欠損等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
③安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
④基礎地盤	☐ 1.沈下・隆起 ☐ 2.洗掘	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑤周辺状況	☐ 1.施設上方斜面の変状 (吸出し・陥没・侵食・湧水・崩落・押出し・亀裂等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい

点検結果 ☐ 異常なし ☐ 異常あり ∴上記で一つでも「異常あり」があれば点検結果も「異常あり」とする

各項目および周辺状況で気づいた点があれば記入して下さい(自由記入)

概略構造 渓流護岸工は、側方侵食の激しい溪流などにより地すべり末端部や側方部(形状や材質には様々な種類があります)が侵食されている場合に、その侵食を防止する目的で施工される施設です。

評価 (施設管理者記入)	☐ 1.追加調査が必要 ☐ 2.補修が必要 ☐ 3.点検を継続
------------------------	--

表 I-2.4.5 樣式-2(1):型 05 日常管理調查票(1/2):堰堤工

様式-2(1) : 型05
日常管理調査票(1/2)

地すべり防止施設機能診断調査

<堰堤工> 安全な位置から判別できる大きな異常の有無を確認すること

点検年月日	/ /	天候	点検者	(調査票番号:)
諸元	区域名	ブロック名	施工年度	
元	該当施設(施設番号)	□ 堰堤工	()	高さ m

対象項目 (□にレをチェック)	異常が見られる項目 (□にレをチェック)	結果 (□にレをチェック)
① 本体・袖部(本堤・副堤・垂直壁) ※堰堤工の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) <材質・種類> ☐ コンクリート ☐ 鋼製枠 ☐ その他()	☐ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) ☐ 2.変形(沈下・傾き・継ぎ目のずれ・はらみ出し等) ☐ 3.損傷(ひび割れ・摩耗・部分欠損等) ☐ 4.漏水	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
② 側壁護岸工 ※側壁護岸工の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない) <材質・種類> ☐ コンクリート ☐ 籠枠等 ☐ その他()	☐ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) ☐ 2.変形(沈下・傾き・継ぎ目のずれ・はらみ出し等) ☐ 3.損傷(ひび割れ・摩耗・部分欠損等) ☐ 4.湧水 施設周辺の湧水の供給源 ☐ 不明 ☐ 有() ☐ 5.構造物背面のすきま(背面地盤の侵食に伴う浮き等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
③ 水叩き ※水叩きの有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.摩耗 ☐ 2.ひび割れ	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
付帯施設 ④ 安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 ☐ 有 ☐ 無(見当たらない)	☐ 1.変形・損傷 ☐ 2.腐食(錆、表面劣化等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑤ 本体周辺状況 ※基礎・袖部の岩着状況を必ず確認 ※堰堤工上流側堆砂域の目視可否 ☐ 可(遠望目視) ☐ 否	☐ 1.基礎地盤の洗掘 ☐ 2.袖部の侵食・崩壊 ☐ 3.堰堤工上流側の堆砂域が満ちていない(堆砂高減少痕跡有) 状況()	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい
⑥ 側壁護岸周辺状況	☐ 1.基礎地盤の洗掘 ☐ 2.施設上方斜面の変状(吸出し、陥没、侵食、湧水等)	☐ 異常なし ☐ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック ☐ 植生等で見えにくい

点検結果 ☐ 異常なし ☐ 異常あり ∴上記で一つでも「異常あり」があれば点検結果も「異常あり」とする

各項目および周辺状況で気づいた点があれば記入して下さい(自由記入)

概略構造
(形状や材質には様々な種類があります)

堰堤工は、渓流内に設置され、堆砂によって地すべり末端部の侵食防止と地すべりに対する押え盛土工の役目を果たす施設です。

※上流側へ向かって堰堤工を見る

評価 (施設管理者記入)	☐ 1.追加調査が必要 ☐ 2.補修が必要 ☐ 3.点検を継続
-----------------	--

表 I -2.4.6 様式-2(1):型 O6 日常管理調査票(1/2)：押え盛土工

様式-2(1)：型O6

日常管理調査票(1/2)

地すべり防止施設機能診断調査

<押え盛土工>

点検年月日	/ /	天候		点検者		(調査票番号:)
諸元	区域名	ブロック名		施工年度		
	該当施設(施設番号) □ 押え盛土工 ()					高さ m
	対象項目(□にレをチェック)		異常が見られる項目(□にレをチェック)		結果(□にレをチェック)	
本体	①盛土工 ※盛土工の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)		□ 1.亀裂(盛土面の開口した亀裂) □ 2.侵食・洗掘(表流水等による盛土材の流出) □ 3.崩落(法面の崩壊等) □ 4.湧水 □ 5.沈下・隆起 □ 6.はらみ出し		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
	②法面保護工 ※法面保護工の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない) <材質・種類> □ 現場打ち法枠工 □ プレキャスト法枠工 □ 石張工 □ 編籠工 □ 籠工 □ 植生工 □ その他()		□ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) □ 2.変形(沈下・傾き・継ぎ目のずれ・はらみ出し等) □ 3.損傷(ひび割れ・部分欠損等) □ 4.植生工の育成不良 □ 5.構造物背面のすきま(背面地盤の侵食に伴う浮き等)		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
付帯施設	③暗きょ・ドレーン ※暗きょ工吐口部・ドレーンの有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)		□ 1.ドレーン材の崩落 □ 2.異常な出水痕跡 □ 3.ドレーン周辺の洗掘 □ 4.その他()		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
	④排水路部(集水升等含む) ※排水路の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)		□ 1.変形・損傷(目地切れ、ひび割れ等) □ 2.閉塞・埋没(土砂、落葉等の堆積等) □ 3.水路脇の陥没・洗掘 □ 4.流末からの土砂流出 □ 5.流末の位置が不明		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
	⑤法尻土留工 ※土留工の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない) 工種()		□ 1.損壊(倒壊・ブロック等の脱落・中詰材の流出等) □ 2.変形(沈下・傾き・継ぎ目のずれ・はらみ出し等) □ 3.損傷(ひび割れ・摩耗・部分欠損等) □ 4.湧水 □ 5.構造物背面のすきま		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
	⑥安全施設(立入防止柵等) ※安全施設の有無を確認 □ 有 □ 無(見当たらない)		□ 1.変形・損傷 □ 2.腐食(錆、表面劣化等)		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
	⑥周辺状況		□ 1.施設上方斜面の変状 (吸出し・陥没・侵食・湧水・崩落・押出し・亀裂等) □ 2.周辺斜面、基礎地盤の変状 (吸出し・陥没・侵食・湧水・崩落・押出し・亀裂等)		□ 異常なし □ 異常あり 【状況】以下に該当すればチェック □ 植生等で見えにくい	
点検結果 □ 異常なし □ 異常あり ∴上記で一つでも「異常あり」があれば点検結果も「異常あり」とする						
各項目および周辺状況で気づいた点があれば記入して下さい(自由記入)						
概略構造 (形状や材質には様々な種類があります) 押え盛土工は、地すべり斜面の下部に盛土を行うことにより地すべりの滑動力に抵抗し、斜面全体の安定化を図る施設です。						
評価 (施設管理者記入) □ 1.追加調査が必要 □ 2.補修が必要 □ 3.点検を継続						